

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 22 年度

事業所番号	2770108971		
法人名	社会福祉法人 エージングライフ福祉会		
事業所名	グループホームフローラ		
所在地	大阪府堺市中区福田549の8		
自己評価作成日	平成 22年 11月 1日	評価結果市町村受理日	平成 23年 2月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2770108971&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 12月 14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設的な雰囲気はなく、建物内の雰囲気は家庭的であるようにしています。各利用者が居室以外でも静かに過ごせる空間を設けています。談話されている傍らで新聞を読むといった自然で落ち着いた空間です。利用者の残存能力を理解し、活かした生活が出来る様支援しています。認知症介護を、よりそうケアに則り否定しない関係を保つ努力をしています。ユニットが別でも関係なく交流を図り、同じ屋根の下で生活するもの同士であるという認識の中生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人エージングライフが設立した2ユニットのグループホームです。ホームは2階建てで市街地にあり、近隣には診療所や商店、市営住宅が立ち並び、散歩のコースにも恵まれています。また、同法人のグループホームとは交流があり、芋掘り等話題が広がりました。運営推進会議を通して地域の方々との交流が深まり、敬老会の出席や運動会への参加、災害対策への協力等、意欲的に取り組んでいます。職員の育成についても、毎月勉強会を催し、自己研鑽を勤めています。フローラ通信を毎月発行し、行事予定やお知らせ、報告を行い、担当職員からはコメントや写真、お便りの発信があり、家族から喜ばれています。医療面では、隣接の医師による往診や看護師への相談等、認知症になっても利用者が安心して暮らせるようなホームを目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

お自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・事業所独自の理念を玄関に掲示し、職員・来客者・御利用者様と誰もが目にすることが出来るようにしている。事業所独自の理念については、各フロアーにも掲示している。併せて理念に基づいた介護目標を職員で出し合い設定し、半年毎に自己評価・反省を行い日々の業務・ケアの向上に努めている。	法人の理念、事業所独自の理念を玄関や廊下、リビング等に提示しています。「個人の意見を尊重し、地域でより良く生活が継続できる場を目指す。」を掲げて職員、来訪者、利用者が目にすることができるようにしています。また、半年毎に理念実現のための介護目標も作成し、職員一人ひとりがケアの向上に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自然と地域に溶け込んでいるような施設を目指し、利用者と共に近隣の商店の利用、隣家の子供が遊びに来ることからご家族との挨拶・交流が出来る。他、地域の連合運動会・秋祭りへの参加はご家族様も参加されている事から、なじみの方からの声掛けがある等、ご利用者様も楽しまれている。同法人クレーネ堺屋上で開催される納涼祭にも参加し、地域の方々にも開放を行なっているので良い交流の場になっている。	住宅地に立地し、地域との付き合いや環境に恵まれ、日常的に散歩時の挨拶など交流があります。隣地の畑を借りてサツマイモを植えて水やりの仕方を教わったり、収穫の時には近隣へお裾分けしたりしています。近隣の子どもがホームへ遊びにきて利用者と一緒におやつを食べたり、触れ合い等があります。また、利用者が近隣の美容院へ出かけたり、近くの商店へおやつを買いに行ったり交流しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	近隣の商店への日常的な買い物に出かけ職員の見守りを行なう上で、地域の方との触れ合いを実践している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1度定期的開催し、地域住民の方々と交流を図れる場、併せて地域から代表して自治会連合会長・民生委員、地域包括センター職員、知見、家族に参加して頂き、事業所の活動報告を行っている。様々な提案やアドバイスもあり、サービス向上に繋がるよう努めている。 また、地域からの要望もあり、施設として地域の方々に求めるばかりではなく、地域のためになる活動実施も検討している。	運営推進会議は2ヵ月に1回開催し、自治会連合会長、民生委員、地域包括支援センター職員、介護支援専門員、家族の参加を得ています。会議では運営状況の報告や事故報告、また地域の委員より情報を得て連合運動会への参加や、災害についての協力についても検討し、会議録も整理しています。今後は、地域の方々が求めている認知症の情報についても発信していく活動を検討しています。	運営推進会議規約の中に、守秘義務についての項目を追加されてはいかがでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括担当者の出席もあり、相談・助言をして頂きやすい環境となっている。また、事故が発生した場合の報告も迅速に行なうよう努めている。 入所状況を堺市に報告も行なっている。	市の担当者には空室情報の報告や、事故報告書を提出しています。困難事例や苦情対応については地域包括支援センターに相談しています。また、3ヵ月に1回、市の福祉課より利用者の面会があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束防止委員会に職員が所属し、マニュアルの作成・改正を行ない、職員への伝達を行なっている。 研修会の開催時には参加し、身体拘束防止への理解を深められるよう努力している。</p>	<p>職員は身体拘束防止委員会に参加し、研修を受講しています。勉強会や事例で研修し、グループホームのマニュアルも整備され、職員は機会あるごとに理解を深めるように努力しています。玄関やエレベーターも開錠し、自由に出入りすることができます。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止の為、法人全体で取り組もうと意識し、研修会が開催されている。職員1人1人の認識のズレがないか、知らず知らずに行なわれていないか管理者は注意を払っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>精神科へ毎月通院されている利用者があり、自立支援医療症の申請等に携わることが出来た。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族様からの不安や疑問点があれば全て管理者で責任を持ち説明を行い、理解して頂けるよう努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様には日常の様子を担当職員が毎月手紙でお知らせしている。管理者は事業所全体の観点を記した「フローラ通信」を発行している。 苦情に関しては、意見箱の設置・契約時に苦情相談担当者の説明も行っているが、介護職員へ気軽に申しつけられるような関係に努めている。	家族の面会時には、できるだけ利用者の日常の様子を伝えて要望等も聞いています。また、玄関に意見箱を設置して、意見をもらえるよう努めています。管理者はホームの行事や情報を「フローラ通信」で発信し、「インフルエンザ」の情報、「職員の人事異動」などをお知らせしています。また担当者が、利用者一人ひとりの写真入りのお手紙を発信し、家族の安心を得ています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月業務会議を開催し、意見交換や様々な取り決めを行っている。 管理者は管理業務のみではなく、自ら現場に出ることで、職員や利用者の様子を把握出来る様に努めている。	毎月業務会議を開催して意見交換をしています。職員の資格取得に向けて「教えてほしい」との要望で、定期的に学習会を開催し、真剣に学ぶ機会を設けています。また、資質向上（キャリアパス）に向けての取り組みが始まり、個別に目標を設定して、1カ月に1回は報告書を提出しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別の面談により職員からの要望も含め働きやすい環境整備に努めている。 努力や実績の評価に対しても、キャリアパス導入により管理者は適切な判断・評価が出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士講座や、毎月開催される法人内研修会へ参加する機会を設けている。また、研修会へ参加出来なかったと、資料をもらい自己学習を行なう職員もある。 外部研修についても、参加してきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人にもう一つGHがあり、それぞれの行事に招待しあい、職員・利用者の交流を積極的に図っている。また職員間では良い情報交換も行えている。 2ヶ月に1度中区GH連絡会へ参加し、交流・意見交換を行っている。同法人内の事業所だけでなく、他事業所の職員・利用者との交流も図れている。 また、堺市内のグループホームと協力し、空き室情報を随時登録し、入居が必要な方への情報として専用ホームページで公開している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今後の生活に対する不安・要望は本人・家族の話を傾聴することから始めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期における対応は、信頼関係の構築に努め、様々な要望や相談事を話してもらいやすい関係を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、家族や本人が必要としているサービスについて理解をし、当事業所だけでなく他施設・他事業所の利用提供・利用協力ができる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場と理解し、利用者と職員という関係が家族のような関係とも取れる場面がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での様子をお伝えすること、家族様からの協力を得ないと支援出来ない部分等理解していただけており、来所しやすい環境整備や、家族様と情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族や親戚、他施設に入所している姉妹との面会が出来る様な支援も行なっている。また家族の協力のもと、定期的に外出し馴染みのお店で食事をされる方もある。</p>	<p>家族と外出し、買い物やミニ落語を楽しみ、外食、墓参り等で気分転換されている方もおられます。足の筋力が弱い利用者が一泊旅行に家族と行かれる際には、ホームより車椅子を用意しました。近隣の友人が来訪されたり、以前からの友人が立ち寄ることもあり、楽しい時間を過ごしてもらおう等、なじみの関係が継続できるよう支援しています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>認知症の進行や、精神疾患を患われている利用者もおり、トラブルになる事もあるが、職員が間に入ることで治まっている。他、家事などを利用者同士協力しながら進めていける関係も持っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所により利用終了した場合でも、家族との連絡は必要に応じて行なっている。入院退所された方へのお見舞い等も含む。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の場であり、様々な年代・疾患を持ちながら生活をしていることも踏まえ、皆が暮らしやすいと感じていただけるよう努め、個人の希望や意向・家族からの情報収集により、カンファレンスを実施し、計画に反映させている。	一人ひとりの思いや意向を大切にしています。利用者の中には、毎日隣にある薬局へ薬をもらいに行く事を日課とされる方、畑の野菜に水をやりに行かれる方、食卓を拭く方、洗濯物をたたまれる方等、それぞれができることを役割とし、生き生きと生活しています。気づきを大切に、職員による「カンファレンスレポート」を活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談・アセスメントをしっかり行ない、入所後も混乱なく生活して頂けるよう、本人・家族・入所前の担当者からの情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「利用者を知る」事の大切さを介護目標にもあげている。ただなんとなく利用者と過ごすのではなく、常に変化が無いか観察している。 利用者の出来る活動と出来ない活動の見極めもしっかりと行い、過剰介護にならないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>協力機関との連携や、日常の様子をしっかり把握するよう努めている。3ヶ月毎にモニタリングを行い、計画変更の必要性があればカンファレンスを行い本人・家族の意向を元に計画を作成している。</p> <p>カンファレンスにおいては、各利用者に担当の職員がおり、カンファレンスレポート（意見・情報）を非常勤含む全職員から収集し、検討している。</p>	<p>介護計画については職員全員が担当者を持ち、カンファレンスレポートによる気づきを原案として会議を開催しています。介護計画書を作成し、3ヶ月毎にモニタリングを行っています。計画変更の必要性があればカンファレンスを行い、意見や情報を共有して利用者、家族の意向に添うよう変更しています。また、家族がカンファレンスに参加することもあります。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>10月より、計画に沿った援助が実践出来ているか、計画変更の必要性はないか記録している。他、日常の様子や変化については個人別に記録し、朝夕の申し送り・申し送りノートを活用することで周知を行なっている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>第二の生活の場として、施設的にならず家庭的な雰囲気を取り入れ、その時々で食べたい物があれば調理レクを取り入れている。法人全体で実施される行事への参加を促し、生活の活性化へ繋げている。</p> <p>また、個人個人のニーズに出来るだけ対応出来る様努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事には参加させて頂く事が出来ているが、現在定期的なボランティア慰問・活動・交流が無い為、地域との共存や、地域の中で根付いていく為に、ボランティアの活用は有意義であり積極的に取り入れて行きたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長年通院していた医療機関への通院は継続出来る様支援している。 また、家族・本人の了承のもと、協力医療機関の医師が往診に来ている。主治医とは少しの異変でも報告できる関係を保っており、適切な診療を受けてもらっている。	利用者は協力医療機関であるクリニックの医師より、往診を受けることができます。歯科も週1回の往診があります。その他、眼科は通院しており、皮膚科は、同法人の診療所で診察を受けることができます。入居前からかかりつけの医療機関への受診は、主として家族の協力を得て継続しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配属はないが、同法人診療所の看護師が週一回健康チェックに訪問してくれる。看護師からの視点や気づきを指示してくれることもある。必要時には、すぐに駆けつけてもらえる体制も整えており、摘便・浣腸等の医療行為を実施してもらうこともある。 また、主治医への報告も併せて行い、適切な受診や看護が提供できる環境を整備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的な面会や担当看護師・相談員と状態の確認や今後の方向性等情報交換を行っている。 また、同法人内の診療所やかかりつけ医により、緊急時には協力医療機関へ迅速に診察が受けられるよう連絡してくれる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した際の対応、事業所の方針を説明し理解して頂いている。状態の変化には常に注意を払い適切な医療を受けることから入院される事のほうが多いが、フローラでの生活が可能な限り営めるよう職員間で努めている。 看取りに関しては、マニュアルを作成し、今後、利用者の様態・家族の希望があれば十分に話し合う機会を設け応じていけるよう準備している。	ホームでは看取りの指針を作成しています。また、重度化した際や終末期にも事業所での生活を継続希望される利用者、家族がおられる時には、ホームでの生活を少しでも長く続けられるよう家族と話し合いをしていきます。現在はまだ看取りの経験はありませんが、運営推進会議の議題に取り上げ、今後も話し合い、検討していく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、急変、事故発生に備え、マニュアルを作成している。法人内での研修もあり参加・伝達を行なうことにより実践力を身につけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署員の立会いのもと、実際の災害発生を想定した訓練を実施している。利用者の誘導・避難方法を実践で行い、必要な救助道具の購入が必要とあれば相談を行なうようにしている。3日分の飲み水・食料品の備蓄も準備している。また、火災の発生時には、人海作戦が効を成すこともあり、運営推進会議など地域の交流を密にし協力が得られるよう努めている。同様に地域で何かあった場合、こちらからも応援出来る体制を整え、協力していきたい。	災害時マニュアルを作成しています。年2回消防署の協力を得て、避難訓練を実施しています。非常口はいつでも開けられる状態になっています。地域の協力体制についても運営推進会議で様々な意見があがり、お互いに協力関係を築けるよう検討しています。また「AED」(自動体外式除細動器)の使い方についても、他の事業所の方たちと一緒に説明を受けました。職員は救急救命訓練にも参加しています。災害の発生に備えて3日分の備蓄も確保しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	契約時には、個人情報保護規定を説明し、利用者・家族の個人情報の扱いを理解していただいている。また、接遇等にも関わるプライバシーの保護・個人情報保護に関する研修会を実施している。利用者・家族・職員全てを含む個人情報の扱いに留意し、見学や利用申し込みの際に預かった個人情報に関しても厳重に漏洩のないよう注意している。	利用者一人ひとりを尊重し、尊厳を侵すことのないよう、言葉遣い、接し方などにも注意しています。利用者家族には個人情報の扱いについて、署名押印を得ています。職員は個人情報やプライバシーの保護についての研修を実施し、理解に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なんでも話してもらえる関係作りに努めると共に、何気ない会話の中にも利用者の希望が隠れていないか常に気を配るよう、気づきのセンスを磨くよう指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよそその日中の流れはあるが、利用者個々の状態に合わせ柔軟な対応が出来る様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族面会時にマニキュアを塗ってもらう方がおられる。自分の好きな衣類を着用できるよう見守りを行い、職員で調整（着用枚数など）を行なうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者より調理済みの食材を取り寄せる形の為、利用者には盛り付けや後片付けを中心にお手伝いして頂いている。他、聞き取りでの嗜好調査を実施し、調理レクを取り入れている。調理レクの際は、食材の買い物・調理から利用者と共に行なっている。	ご飯はホームで炊き、副食は毎食調理されたものが業者から届きます。炊き込みごはんの時には具材を切ったり、また果物は皮をむいたりしています。月1回は調理レクリエーションとして、冬はうどんすき、お鍋、おでんなどを楽しんでいます。おやつは手作りすることもあり、みたらしだんごやサンドイッチ、柏餅を作ったりします。芋掘りをしたあとはスイートポテトを作り、利用者より「おいしい」と好評です。利用者は食卓を拭く等、できることは一緒に行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	総合チェック表に毎日毎回の食事摂取量・飲水量を記録している。体重の増減を把握する為毎月初めに体重測定を実施。食材の納入業者からのカロリー一覧表もある。摂取状態により、一口大・キザミ・ミキサーと分けている。粥希望の方には粥を焚き提供できている。職員1名は必ず検食を行い、6月より検食簿を作成。その日の献立の状況、利用者の反応、声・職員の感じた事を記入し、毎月業者へ渡している。利用者に美味しいと言ってもらえるよう業者との連携に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全利用者、毎食後に口腔ケアを実施している。介助を要する方には職員が介助している。毎週1回訪問歯科治療があり、専門的な口腔ケア・治療を受けている。全介助の方に関しては、残歯の機械的清掃・口腔内の残渣物除去を中心に、誤嚥性肺炎の予防も行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用することで、利用者の排泄パターンを把握し、声かけ・誘導にてトイレでの自然排泄を促している。夜間はポータブルトイレの活用も行き、紙パンツ・パッドの使用量を減らすよう取り組んでいる。	排泄チェック表を作成しています。昼間に紙オムツを使用している方はなく、夜間のみオムツを使用している利用者がいます。利用者がトイレに入られた時は職員も気をつけていますが、排泄排便の汚れや後始末等もあって、排泄後に利用者がそっと教えてくれたりしています。ホームのマスコット「フローラちゃん」を描いて、「お手拭きの紙はここです」など、細かな注意を促しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性的な運動不足により腸の運動が低下しがちな為、気候の良い日は散歩に出かけるが、毎日全利用者とは行かない為、おやつ前にリハビリ体操を毎日実施し身体を動かしている。他、水分・食事摂取量の把握にも注意を払っている。腸の運動が弱く便秘がちな方には、医師の指導のもと下剤を使用するが、急激な排便は便ショックを引き起こす場合もあり、できる限り自然に排便出来る様取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に日曜日以外で週3回の入浴日を設定しているが、希望者は毎日でも入浴することが可能。午前中に誘導を行う場合、朝に入らないと拒否されることもあり、夕方に入ってもらう等利用者の生活習慣に添った入浴提供を行う努力をしている。個浴を基本とし、プライバシーを尊重した入浴の時間を提供している。	利用者は週3回入浴を楽しんでいます。毎日入りたいという希望があれば、入浴してもらっています。また、夕方入りたい方にも支援しています。1階は特別浴槽になっており浴槽がスライドして低くなり、入りやすいよう工夫されています。2階は個浴です。手すりを使いやすく取り付けられ、手すりに色で目印をつけて、そこを持って自然に入れるようになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	日中の活動量を確保する、入眠前 の刺激を避ける等配慮を行ない、 室温管理・騒音の排除を行い安眠 できる環境整備に努めている。覚 醒状態が続き、なかなか入眠出 来ない方は、夜勤者と共にフロ アーで過ごしていただき、眠くな られたタイミングで居室へ誘導し ている。 夕飯の時間が早いこともあり、時 々空腹の訴えで離床される方も あり、おにぎり食べて頂く等の 配慮もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	薬局からの薬剤情報提供書の確 認、医師との連携により1人1人 の服薬内容・効能について把握 するよう努めている。服薬の介 助に関しては職員で管理する為 、誤薬防止に力を入れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	共同生活の中で、掃除や炊事、 洗濯等の家事全般を職員と利用 者で協力しながら行なっている。 また、様々なレクリエーション を取り入れる工夫も行い、生活 の活性化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日には積極的に散歩へ出かけている。買い物の希望があれば家族の協力の元、外出される方もいれば、職員と共に量販店への買い物も出かけられる。春にはお花見、秋には紅葉狩りの予定を立てている。	積極的に外出支援を行っています。施設の周辺を歩くと約45分の散歩コースになります。また法人の敷地内に設置された小公園は便利で、利用者は噴水や鯉などの観賞を楽しみによく行きます。毎日薬局に行ってくれる方、職員と買物に出かける方、家族との外出を楽しむ方もあります。遠出等の外出はレクリエーション担当職員が企画し、実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、個人での金銭管理は行なっておらず、家族了承のもと必要時は施設立替にてお金を渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	公衆電話の設置はあるが、現在使用される方はいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースには利用者と共に製作した季節に応じた壁面作品を飾り、10月には裏の畑を管理されている方からたくさんのコスモスを頂いた。	共有空間はバリアフリーとなっており、トイレのドア等、スライドで開けやすく工夫されています。また、居室にはクリスマスの飾り付けや折り紙が飾られています。サブリビングのスペースが確保しており、食後やおやつのあと、一人になりたい時にも有効に活用され、自由に過ごせる雰囲気となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良いサブリビングにはソファを設置し、1人静かに過ごす、談笑が出来るスペースとして利用されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所後の生活が穏やかに営めるよう、自宅で使用していた家具や食器を持参して頂いている。	各部屋は日当たりも良く、清潔に掃除が行き届いています。入り口にクリスマスのリースと表札が掛けてあり、利用者の目線にあった高さに調節していました。部屋には使い慣れた家具、ベッド、テレビなどが持ち込まれています。自分の趣味を活かして季節毎の行事写真を飾っている利用者もあり、ゆったりと落ち着いて過ごせるように工夫されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用で使用する箇所にはわかりやすいように案内を表示している。職員の見守のもと、わからない場合は介助に入るが、ほとんどの方が自室を理解している。		